

ショパン国際ピアノコンクール in ASIA コンチェルト部門 2年連続金賞

綾瀬小学校 4年
のぐち たいせい
野口 大晴 さん

コンクールの感想を「練習を毎日頑張った分、必ず今回も金賞を取ると心に決めていた。それが実現できた瞬間は、飛び上がるくらい嬉しかった」と答えてくれました。

5歳からピアノを教えている先生は、「豊かな才能に恵まれている上に努力家、彼の一番の良さは音楽を楽しむ演奏できること」だとコメントしています。本人も「気持ちを込めて演奏することには自信がある」と語ってくれます。その一方で、彼もやはりまだ小学4年生、大会前は母親の目からも緊張しているのがひしひしと伝わってきたと言いますが、いざ演奏が始まるとすぐく楽しそうに演奏し、終わるともう一度演奏したいと笑顔を見せたそうです。

コンチェルトの共演者は初対面、何



(C)和知写真事務所

よりみな外国人で言葉が通じません。さらにリハーサルが1回きりという中でも、ジェスチャーで、目で、共演者との呼吸を合わせて演奏することを楽しんでそうです。

ピアノに加え野球もやっているという野口さんにとってピアノは、つらい時に助けてくれる「友達」のような存在です。好きな野球の練習がつかない時にピアノを弾くと気分が良くなると言います。その友達との活躍がこれからも楽しみです。

世界で活躍

すごいね！ あだちの 子どもたち

VOL.12

江北中学校 3年

もり 森 ひかる さん

トランポリンを始めた4歳で区の大
会、小学3年生で全国大会で優勝と、
順風満帆な選手生活を送ってきたと思
われる森さんですが、小学4年生の時、
腕の骨折による恐怖心で跳べなくなる
挫折を経験しています。その壁を乗り越
えて昨年の世界年齢別トランポリン
選手権大会の準優勝、全日本トランポ
リン競技選手権大会の優勝という大活
躍につながっています。森さんにとっ
てトランポリンの魅力は、空を飛んで

3回転を2回跳べる選手となった森さんですが、これからの課題を演技の美しさと跳躍の高さも上げていくこと、さらに先の目標として、東京オリンピックで金メダルを取ることだと意欲を見せてくれました。自分がトランポリンができるのは家族や監督たちのおかげと謙虚さも忘れません。今、世界のトップレベルで輝いている森さんからますます目が離せません。

いるような感覚を味わえるところで、もつとみんなにその魅力を知って欲しいと笑顔で話してくれました。



▲世界年齢別トランポリン選手権
13～14歳の部で自己ベスト準優勝
(写真左)

世界年齢別
トランポリン
選手権大会準優勝、
全日本
トランポリン競技
選手権大会
史上最年少優勝

教育政策課 教育政策担当
問合せ先 ☎ 3880-5962

「あだち教育だより」にご意見・ご感想をお寄せください。
足立区教育委員会事務局 教育政策課 ☎ 3880-5962 E-mail : k-seisaku@city.adachi.tokyo.jp

「美しいまち」は「安全なまち」
ビューティフル・ウィンドウズ運動員仲間



足立区 8

印刷番号 26-313